

令和7年度 第3回宇治市部活動地域移行検討委員会会議録

会議名	令和7年度 第3回宇治市部活動地域移行検討委員会
日時	令和8年1月21日(水) 15時00分～17時00分
場所	宇治市生涯学習センター2階一般研修室
出席者	<p>(委員) 長積委員長 林口副委員長 平田委員 木村委員 矢野委員 中西委員 青木委員 杉本委員 小野委員 須田委員 村上委員</p> <p>(事務局) 福井教育部長 川崎教育副部長 武田教育総合推進センター長 安留学校教育課長 葛山学校教育副課長 一井学校教育課総括指導主事兼教育指導係長 寺内指導主事 吉田学校教育指導主事 脇坂産業観光部長 齊藤産業観光副部長 吉田文化スポーツ課長 倉井文化スポーツ副課長 菅居文化スポーツ課スポーツ係長</p>
配布資料	令和7年度第3回宇治市部活動地域移行検討委員会説明資料
<p>1 開会 開会挨拶 (事務局)</p> <p>2 報告事項 (1) 令和7年度宇治市部活動地域展開に係る実践研究事業 (宇治市地域クラブ) のまとめ (2) 令和7年度宇治市部活動地域移行検討委員会の活動報告</p> <p>3 協議事項 (1) 学校部活動の地域展開等の進め方について (案) (令和8年度～令和10年度) (2) 令和8年度の実践研究事業について (案) (3) 令和8年度以降の宇治市部活動地域展開に係る協議の在り方について</p> <p>(委員長) 報告事項 (1) について、報告をお願いしたい。</p> <p>(事務局) 事務局から説明。</p> <p>(委員長) オペレーション上の課題は想定されている通りであった。また今後の課題として運営団体の仕組みをどのようにつくっていくのかというところである。</p> <p>(委員) 顧問としては、土日が休みになったので気持ちの部分で救われた。一方で生徒との関わりが疎遠になってしまったように感じる。また、気になる点として地域クラブ活動参加後は学校部活動において大切にしている挨拶や機敏な行動などがおろそかになっているように感じられた。</p> <p>(委員長)</p>	

現場の先生にとって業務が改善される可能性がある一方で、これまで学校部活動において大切にしてきたことが継承されるためには、地域クラブの指導者と顧問のコミュニケーションは欠かせないのではと考える。

(委員)

実践研究事業は教員が関わって実施したのか。

(事務局)

教員は関わらない形で実施した。

(委員長)

オペレーション上の問題を解決し、地域展開の仕組みを作っていくために運営団体をどこが、どのように担うのかを、次年度以降さらに検証できればよい。

次に、報告事項(2)について、報告をお願いしたい。

(事務局)

事務局から説明。

(委員長)

次に、協議事項(1)について、説明をお願いしたい。

(事務局)

事務局から説明。

(委員長)

子どもたちが安心して活動ができるような体制を整え、休日は地域展開を中心としながら、平日は学校連携を行い、今後の地域展開に向けて実践研究事業と並行して、運営団体の在り方の検討を進めていくということであった。

(委員)

実践研究事業で女子ソフトボールを選んだ理由は何か。実践研究が女子種目ばかりのため、男子の種目を入れたほうがよいのでは。

(事務局)

市内で部員数の減少が顕著な種目における、子どもたちの活動機会を確保するという視点に立ち、女子ソフトボールから実践研究事業を実施することを考えている。加えて、令和9年度については、発展させた形で実践研究事業を実施していくことを想定している。

(委員)

野球部、サッカー部も学校によっては部員が数名しかいない現状があるため、男子を対象とした実践研究も必要だと感じる。

(委員長)

令和8年度は、女子ソフトテニス部の実践研究事業はどうなるのか。

(事務局)

今年度の目的は検証できたと考えている。令和8年度からは、生徒の活動機会の確保に取り組むことを中心に考えており、部員数の足りている女子ソフトテニス部の実践研究事業は行わない。

(委員長)

検証した形を多少でも残すことも模索してもよいのではと感じた。

(委員)

既存の部活動にある種目の地域展開を進めるだけなのか、部活動以外の種目について進めていくことも想定されているのか。また、その財源はどうしていくのか。宇治市がどのような枠組みを担っていくのか。地域連携はどのようにイメージをしているのか。

(事務局)

運営団体の在り方や、実施主体の確保について検討が至っていない部分もあるため、運営団体等の枠組みについて、実践研究事業と並行して今後定めていく形を考えている。

地域連携については、部活動指導員の配置や複数校合同チームの取組が進められている。また、宇治市校長会では拠点校部活動の導入が検討されていることも把握している。今後拠点校部活動については、宇治市校長会と事務局ですり合わせを行う中で、地域展開の取組と関連させた形を見出すことも可能かもしれない。

(委員)

来年度地域展開を行っている先進地の視察も必要である。地域展開が進んでいるところは、強いリーダーシップのもと、運営団体を新たに創設されているところが多い。運営団体が定まらないと指導者や財源について決まらないと思う。

(委員)

実践研究事業に継続性がないように感じる。また、現在地域クラブの母体となるものがないのであれば、プラットフォームのような組織等の検討を進めていく必要がある。加えて、令和11年度以降についても想定しておくべきである。

(事務局)

令和8年度から行う女子ソフトボール、吹奏楽の実践研究事業については、本格的な地域クラブ活動の実施を見越した活動を行っていききたい。

(委員)

いろいろなスポーツを通じての人間教育が最終目的であって、そこを踏み外さないように、宇治市として認定した地域クラブを考えていただきたい。

(委員長)

実践研究事業で検証できた形や残った形を広げていくというようなこともできればいい。実施したことが仕組みになって広がり、形が残るようにしていただきたい。

(委員)

宇治市において地域クラブ活動を認定する体制づくりや、今後市の部局間において、認定を行う体制の枠組みの整備を進めていくことが必要だと感じる。

(事務局)

地域クラブの認定制度に関しては、ガイドラインに示されている通り、自治体が認定していくという流れになる。体制整備等を含めて、検討を進めていきたいと考えている。

(委員)

文化関係団体は4月に新しい年度の総会がある。具体的に話が進むことがあれば、協力はしていきたいと考えているが、地域展開について関係団体にどこまでの話をすればよいのか。

(事務局)

今後検討していきたい。

(委員長)

情報提供の機会があるなら生かしてもらいたい。

(委員)

地域展開の現状や今後の方向性について、市のほうからも説明していただきたい。

(事務局)

今後、市の方からも説明できるよう調整をさせていただきたい。

(委員長)

宇治市から、皆さんに協力してほしいというメッセージを送る機会をつくってほしい。

(委員)

団体があってそこに子どもたちが行くというスタイル、ある程度拠点校を決め、指導者に来ていただくというスタイルのどちらも想定しないといけない。地域展開の形として、部活動に焦点を当てるのか、子どもの様々な活動に焦点を当てるのかなど大きな方向性はあったほうがよい。

(委員長)

土日はこのような活動があるという形を示していくのがよいのか、部活動の拠点校と併用して行うのがよいのか、または拠点校だけで行っていくのがよいのか、現場の先生の方々の印象はどうか。

(委員)

どちらでも子どもが選ぶ形であればよいと思う。現状、休日には中体連主催の試合がある。休日は部活動をしない場合、大会の出場をどうしていくのか。運営団体、市として大会への出場も踏まえた方針があればいい。

(委員)

宇治市校長会が主導で拠点校部活動を進めているが、教育委員会が主導で行っていくのか。また現状でどのようにサポートしていこうと考えているのか。宇治市校長会としても協力していただけるとありがたい。

(事務局)

今後、宇治市校長会とすり合わせを行い、必要な部分で教育委員会も関わるという形になる。

(委員)

令和9、10年頃に運営団体もしくは準備団体を立ち上げると令和11年以降の取組が行いやすいと思う。また、受益者負担の在り方が保護者にとって気になる。運営団体に企業が入ることは想定しているのか。企業協賛等によって受益者負担を減らすことができれば、保護者にとってはありがたいのではないかと。

(事務局)

今後、企業との連携も視野に入れながら考えていく必要がある。

(委員)

来年度から吹奏楽を対象とした実践研究事業が始まるが、所属団体へ説明しても関係ないように受け止められないかが気になる。この流れの中で、音楽連盟として地域展開にどのように関わっていくべきかが見えてこないように感じる。

(委員長)

子どもたちが経験していない活動をするために、様々な文化団体・芸術団体の方々に参画してもらえよう、協力の要請を行っていく必要がある。

(委員)

吹奏楽に関しては、学校に部活があるから子どもたちがやってみようと思うところがある。拠点校部活動では、自分の学校にない部に子どもたちが行くのかなとも思う。そう考えると、参加できる様々な団体があることを子どもたちに示すのがよいのではないか。そのためには、母体となる組織を先に作っていく方がよいのではないか。拠点校部活動はあくまでも生徒の活動を保障するためのもので、生徒が様々な活動に参加できるようにすることが前提であるため、それは崩れないようにしたい。

(委員長)

先生方の願いとしては子供たちの活動の保障を大前提としてもらいたいということである。

(委員)

地域展開を目指すうえで、様々な子どもたちの状況がある中で、学校が関与せず地域で受け入れてもらう形ができるのかが気になる。

(委員長)

現場の先生の見地に立った意見だった。

(委員)

地域展開を進めていくためにこういった団体がリーダーシップを持つのかによって推進力が大きく異なるように感じる。運営団体の目途は立っているのか。

(事務局)

現状では定められてない。

(委員長)

協議事項(2)について、説明をお願いしたい。

(事務局)

事務局から説明。

(委員)

吹奏楽の対象校について広野中学校は南宇治中と部員数が1名しか変わらないが、対象としないのか。

(事務局)

対象校が増えると、より既存の活動との調整が非常に難しくなる。そのため、令和8年度は2校から始め、令和9年度については対象を増やすことや、顧問による専門的な指導が難しい場合等を想定しながら、実践研究事業を発展させていくことを考えている。

(委員)

女子ソフトボール部の3年生は6月から実施して、すぐに活動が終わる形になってしまうのではないかと。

(事務局)

1、2年生だけでなく、引退した3年生も活動に参加できるような仕組みをつくっていく。

(委員)

今後、地域クラブが練習試合や大会に参加することも検討してもらえるとよい。

(委員)

令和8年度の実践研究事業について、顧問への説明や打ち合わせの段取りはどうか。

(事務局)

検討委員会での検討を基に、今後顧問への説明や打ち合わせを行っていく予定である。

(副委員長)

地域展開の理念としては、生涯スポーツや将来的な文化活動につなげていくことが掲げられており、一致団結して、そういった形が実現できるものをつくっていただきたい。

(委員)

市内のソフトボール部は全て女子ソフトボール部か。

(事務局)

全て女子ソフトボール部である。

(委員長)

協議事項(3)について、説明をお願いしたい。

(事務局)

事務局から説明。

(委員長)

地域展開をどのような方向性で進めていくのかを見据えることや、運営団体に関することについて御意見があった。令和8年度の1回目の検討委員会では、少し方向性を出せるように準備していただければと思う。

(委員)

来年度の検討委員会の委員に顧問代表は選出しなくてよいのか。

(事務局)

学校関係者については、管理職の方を中心に考えている。

### 3 閉会

閉会挨拶(事務局)